

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3071000453		
法人名	医療法人 敬英会		
事業所名	グループホーム 幸楽の里 [けやき]		
所在地	和歌山県橋本市隅田町山内1919-3		
自己評価作成日	平成28年7月30日	評価結果市町村受理日	平成28年10月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaiyokensaku.jp/30/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=3071000453-00&PrefCd=30&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成28年8月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	GHの玄関や職員の目につく所に掲示はしているが、数年前よりもっと簡素化し、わかりやすい物に変えていこうという話が出ている。しかし、依然として進展していない。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	2ヶ月に1度、地域運営推進会議を開き、地域で開催される夏祭りや運動会などに利用者様共々、参加させて頂いている。又、当施設のクリスマス会に地域の方々をお招きするのが慣例となっていて、必ず参加下さっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	月に1度、ボランティアの方に来所して頂き、利用者様と話をしたり、レクリエーションに参加して頂いている。利用者様と共に過ごす時間を持って頂く事で、理解や支援を得られるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、地域運営推進会議を開き、より良いサービスを提供出来る様、又、交流を深めていけるようお互いに情報を提供しあっている。避難訓練の実施状況も報告し、色々なアドバイスも頂いた。災害が起きた時の協力もお願いしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じて、介護保険の担当者やいきいき長寿会の方々と連絡を取っている。市からの要望に関しては出来る限り協力するようにしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	フロア会議等により、身体拘束にあたる事例ではないか等、話し合いがよく持たれている。幸楽の里では玄関等の施錠を行っていない為、不安な気持ちから帰宅願望を持たれる利用者様には職員の見守り強化を徹底している。		

グループホーム幸楽の里(けやき)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に出席して学ぶ機会はなかったが、フロアー会議などによりスタッフの知識向上に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	対応は管理者が行っている。研修の際に学ぶ機会はあるが、職員全員に学ばせる必要性は自施設では余り感じていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結や改定等の際は、時間をかけて説明し、理解して頂いている。しかし、その後も疑問点などがある場合は、その都度しっかり説明させて頂き、理解して頂けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様が来所された時などに、必ず職員から利用者様の日頃の様子をお話させて頂いている。その際、家族様のご意見、ご要望があれば可能な限り、実行するよう努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人では月2回の全体会議を、幸楽の里では月1回フロアー会議を開いている。フロアー会議では全職員が参加して意見を出し合い、問題意識の向上を図っている。又、年に2回個人面談を行い、職員が意見を述べる機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員に自己評価を提出してもらった後に、管理者が職員一人一人と面接し評価をする事で、公平を期するようにしている。面接で職員としっかり話をする事で、職員が心地よく勤務出来る様に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護福祉士やケアマネージャーなどの資格取得の為に勉強会を設けている。又、介護福祉士の実務者研修費支援金制度を設けたり、介護プロフェッショナルキャリア段位のレベル認定にも力をいれている。		

グループホーム幸楽の里(けやき)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会などで同業者と会う機会はあるものの、お互いに訪問したり、ネットワーク作りなどの為の交流は出来ていない。他施設の見学等が出来るのであれば積極的に参加してみたいが、現状少し困難である。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様本人ともゆっくり話をする時間を設け、家族様の要望・不安に思われている事も情報として収集し、利用者様により良い支援を提供出来る様、努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の要望、施設に入られる際の不安などをお聞きし、必要な事柄を見極め、全職員で情報を共有。また、家族様の協力も得ながら施設で落ち着いた生活を送って頂けるよう努めている。入所後でも、面会時や電話などでお話をするようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	これまでの暮らしの継続、その人らしい暮らしの継続の為に何が必要であるか、どう支援すべきかを職員間で共有し、家族様の協力も得ながらゆったりと落ち着いた生活が送れるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の状態をしっかりと把握し、出来る事、出来ない事を見極め、自身で出来る事は積極的に取り組んで頂いている。お手伝いして頂いた後には、感謝の気持ちを伝え、必要とされているという自信を持って頂けるよう心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様には施設での行事(祭り・クリスマス会など)に参加して頂くよう声掛けをさせて頂いている。また、利用者様の誕生日には一緒にお祝いして頂けるように連絡するなど、ご家族様と共に支えていくよう心掛けている。利用者様の情報を伝える事により、家族様の笑顔も見られる時があるので、出来る限り家族様とお話するようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご近所の方や友人が来られる利用者様は少ないが、来所された時は、楽しい時間を過ごして頂けるよう、居室にお通しし、お茶など飲み物をお持ちするようにしている。		

グループホーム幸楽の里(けやき)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士がうまく会話出来る様に、座る場所を考え、レク等を行っている。しかし、うまく会話が伝わらない時などは職員が間に入り、利用者様同士がうまく関われるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院になった利用者様の所にも様子を見に伺い、家族様の考えも聞きながら、利用者様の今後について最良の対応が出来る様、支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所前の生活環境や好きな事等をアセスメントシートや本人、または家族様のお話から把握し、本人の希望に添った生活ペースを作れるようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様との会話から、又、家族様から話を聞くなどし、今までの生活環境や好きな事などを把握して、入所された後も好きな事、得意な事を継続していってもらえるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録シートに、一日の過ごし方の記録をしている。また、心身の状態も記録に残しながら、変化がある時はスタッフ間で現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に一度のケアプラン作成にあたり、本人、家族様の意見も聞いている。また月1回フロア会議を開き、問題点や改善策を職員全員で話し合い、介護計画の見直しをしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録シートや申し送りノートに、気づきや工夫を記入し、状態変化があれば話し合い、プラン変更をしている。		

グループホーム幸楽の里(けやき)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族様の事情も考慮し、相談しながら、出来るだけ希望に添えられるよう努力している。必要に応じて、往診に入ってもらったり、歯科衛生士・歯科医・看護師・理学療法士に協力を依頼し、柔軟な支援やサービスの多様化に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者全員とはいかない時もあるが、地域の方々の協力も得ながら、季節折々の行事に参加して頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前のかかりつけ医にそのまま、診て頂く事が多いが、受診出来なくなった場合は家族様とも相談の上、往診に入ってもらよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	些細な事でも記録に残し、情報として看護師や医師に伝えるようにしている。又、ターミナルケア時など必要であれば個人記録を作成し、医師や看護師だけでなく、全職員にも状態を把握出来る様に心掛けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に必要な物や薬、利用者様のアセスメントシートなどを早急に提供し、安心して治療をしてもらえるよう配慮している。面会時には利用者様だけでなく、担当の看護師にも話を聞くなどし、状態の把握に努めている。また、退院後の対応など情報を交換し、病院関係者との関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族様・主治医・管理者で話し合いを持ち、施設で出来る事、出来ない事を説明しながら、今後の治療方針について話し合い、関係者と連携しながら支援するように努力している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	フロアー会議で、利用者様の急変や事故発生時の対応の仕方の勉強会を行った。又、事務所に緊急マニュアルを貼っており、職員には緊急時の際には慌てず対応するよう伝えている。		

グループホーム幸楽の里(けやき)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	無洗米や水を備蓄し、電気が使えない時の為にガスコンロで米を炊く試みをした。また、避難訓練で、シーツを使用しての避難も行い、終了後、職員で改善点も話し合った。その結果を地域運営推進会議で報告し、災害がおきた時の協力もお願いしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様は人生の先輩であるという事を常に念頭において、丁寧な言葉がけを行うよう職員には伝えているが、関係性が密になると言葉遣いも馴れ合いになってきてしまう為、職員同士で注意し合っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思疎通が難しい利用者様もおられ、自己決定出来ない事も多いが、どんな小さな事でも本人が希望を表して下さったら、それに添えるよう努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	拒否された時などは無理強いする事なく、時間を置いて対応するようにしている。又、利用者みんなで過ごす時間も大切にしつつ、自分の時間も大切にもらえるよう声掛けている。だが、利用者全員の希望に添えている所まではいっていない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服選びが可能な利用者様には、職員と共にその日に着て頂く洋服を選んで着て頂くようにしている。また、洗顔後に手持ちの化粧水や乳液をつけて頂くよう声掛けもしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を出来るだけお出しするよう心掛けている。盛り付けの際は、利用者様の食事量や形態にも気をつけて残さず食べてもらえるよう努力している。利用者様には皮むきや、盛り付けなど出来る事をお手伝いして頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の体調や希望に合わせて、主食はお粥にしたり、おにぎりに、副食はその人の食べやすい大きさにして提供している。水分は夕方に1度集計し、不足している利用者様にはお茶やジュースなどを提供。それでも不足している場合は、寝る前にティータイムの時間を取り、飲み物を提供している。		

グループホーム幸楽の里(けやき)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアは行っているが、拒否される時は時間をおいて対応するなどしている。口臭が気になる利用者様には家族様に相談し、口臭予防の液体を購入し使用したりもしている。また、週に1度歯科衛生士が口腔ケアを行い、必要であれば歯科医が来て治療も行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけトイレで排泄して頂けるように、それぞれの排尿パターンを把握し、間が空いている時には声掛けをし、誘導している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ自然排便出来る様に、野菜を沢山使った献立を考えたり、排便-2日目に牛乳を提供したりしている。それでも排便のない時は、看護師に座薬を挿肛してもらうなど便秘が続かないようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は隔日で行っている。午前と午後に分けて入ってもらっているが、利用者様に午前、午後どちらがいいか決めて頂いている。どうしても入りたくないと言われる方は、無理強いせず、日にちを変更する事もある。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入所前、朝遅くまで寝ておられた利用者様には、施設に入られた後もゆっくり寝て頂けるよう、最後に声掛け起きてもらうなどの配慮をしている。又、余り眠れなかった利用者様には、お昼寝するよう声掛けするなど、休息の時間を持って頂くようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期的に服用している薬は、薬箱に1週間分セットし、表から見て分かるように薬名、用法などを記載した紙を貼り、職員全員が把握出来る様にしている。臨時薬が出た時は、申し送りノートに記載すると共に、薬箱にも服用薬品名用紙を添付するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ひとりひとり、出来る事が違う為、その人に出来るお手伝いをして頂いている。また、歌の好きな方には歌番組を、将棋の好きな方には将棋番組を職員が録画し、時間のある時に観て楽しんで頂くようにしている。		

グループホーム幸楽の里(けやき)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族様と外食に出掛けたり、親戚が集まる法事に出掛けたり、また、家族様の協力で入所前にご近所の方とお茶を飲みながら話をする会合に参加されたりする利用者様もおられる。お正月など家族が集まる際に外泊される方もおり、その際は、薬やその他必要な物を準備し、楽しく過ごして頂けるよう配慮している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がお金を持ちたいという希望があれば、持たせる事もあるが、持たせる事でトラブルになる事もあり、必ずしも良いとは思っていない。こちらの方で大切に預らせていただいております。使いたい時にはいつでも使って頂ける事を伝え、安心してもらうよう声掛けしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様から、電話をかけたい、手紙を送りたい等の訴えはないが、家族様から電話がかかってきた際に代わり、お話をされる事がある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様がいつも集まるフロアーは、大きな窓になっていて、外の景色がよく見えるようになっている。テーブルには職員が四季折々の花を飾るようにし、利用者様にも季節感を味わってもらえるよう心掛けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆さん、足上げも出来るリクライニングがお好きなようで、時間を決めて休んで頂くようにしている。又、洗面台前の長椅子もトイレ後の休憩や、待ち時間として過ごされる事が多く、落ち着いた場所の様である。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	新規に入所される場合は、家族様と話し合いをしながら、利用者様に必要な物を持って来て頂くようにしている。又、利用者様が以前作られたパッチワークなどを飾ったり、それぞれに心地よく過ごせるお部屋になるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒される事がないように、歩行の邪魔になるような物は出来るだけ置かないようにしている。シルバーカーを押しながら移動される方も、側で見守りをし、少しでも自身で出来る事はしてもらうよう配慮している。		